

桜の首飾り



[樱花的首饰_下载链接1](#)

著者:千早 茜

出版者:実業之日本社

出版时间:2015-1-31

装帧:

isbn:9784408552095

烈しくも切ない、桜と人生をめぐる7つの物語

あたたかい桜、冷たく微笑む桜、烈しく乱れ散る桜……

桜の季節に、人と人の心が繋がる一瞬を鮮やかに切り取った、感動の短編集。

ステージママを嫌う子役の女の子(「初花」)、謎多き愛人をめぐる二人の男(「花荒れ」)、

見知らぬ女性から「青い桜の刺青の標本を探して」と頼まれる大学資料館のアルバイト(「背中」)

……現代に生きる男女の幻想、羨望、嫉妬、自己回復、そして成長を、気鋭の作家が描き出す。

【収録作品】

■春の狐憑き

美術館勤務のわたしの昼休み。初老の男性が言う。

狐は人の健全な心を喰うのだとか。喰われると心が解放されるらしい。

■白い破片

花見場所取りの際の雨宿り。声をかけてきた人懐っこい女。

そこで俺が思ひだしたのは、冷たい笑いをする過去の女だった。

■初花

元女優のママは、小六のあたしを無理やり華やかな世界で注目させたがる。

いやになったあたしは花屋さんで…。

■エリクシール

わたしは夫の亡妻の身代わり……それに気づいてしまった女は、

バーで知り合った男と愉悦の時間をもっていたが。

■花荒れ

国税局の男に私は、「ゆきちゃん」と名乗る女との関係を聞かれたが、

二人の関係は和菓子がきっかけに過ぎなかった。

■背中

大学内外から持ちこまれる資料を整理するバイト中の僕。

四角四面の上司のもとに、刺青の標本を見たいという女の電話が…。

■樺の秘色

亡くなった祖母の家の庭に私が見た少女の幽霊。

家族にもわからない少女の姿を見えていそうなのは、私のほかに風来坊の男。

【藤田宣永氏の解説より抜粋】

「桜はいにしえから歌に詠まれ、小説でも幾度となく取り上げられてきた。

日本人と切っても切れない花、誰にでも馴染むが奥の深い名花である。

その名花を千早さんがどう作品の味つけに使うか、愉しみにしてページをくつていった。

柔らかくて温かい桜もあれば、女の隠された色として顕れる桜もある。

テーマと直結しているものもあれば、遠巻きに迫ってくるものもある。

ともかく一作一作に趣向が凝らされている。

しかし、どの作品からも、千早さんの世界が匂い立ってくる——」

作者介绍:

目录:

[桜の首飾り 下载链接1](#)

标签

千早茜

评论

围绕樱花的7则短篇故事集。没有特别出彩的地方，之前读她作品的那种奇妙的艶感没了… 背中和樺の秘色还不错。

全部戳中我的点。连后记都写得佩服得不行，一些观点也都完全符合我的审美。也许是时候沉迷一会儿千早茜了。

[桜の首飾り 下载链接1](#)

书评

[桜の首飾り 下载链接1](#)